

<清和台中学校 学校関係者評価>

今年度の学校評価を行うにあたり、職員、生徒、保護者にアンケートを行った。その結果をもとに、今年度の教育課程や学校教育活動について学校関係者(学校評議員)に説明を行い、以下のようなご意見をいただいた。これらのご意見については、全職員に周知するとともに、次年度の学校教育目標の設定、並びに教育課程編成の参考とする。

1. 全体的には、生徒、保護者ともに、肯定的な回答が多く、概ね良好な状態である。しかし、学年ごとに見ると、2年生に否定的な回答が大幅に増加している。2年生は、来年度最上級生となることを考えると、学校全体に及ぼす影響が大きく、今後信頼回復に向けた対策が必要である。3年生については、肯定的な回答が若干増加しており、特に「先生はわかりやすい授業をしてくれている」や「先生は学習に関する質問に丁寧に答えてくれる」については、肯定的な回答が大幅に増加しており、授業に対しての工夫や子どもへの関わりが改善されたことがうかがえる。
2. 生徒指導に重点を置いた指導と行事を学級づくりや仲間づくりの核に位置づけた指導がなされており、その結果、学校全体が落ち着いた状態が維持され、重大ないじめや問題行動も依然少ない状態が保たれていることは評価できる。また、校内、校外を問わず、ルールやマナーを守って生活できる生徒が増えていることも評価できる。
3. 学校行事に対する生徒の充実感が高く、行事が学級づくりや仲間づくり、それに自己有要感や自尊心の高揚に有効に活用できている。また、保護者、教職員の満足度も高く、生徒たちと教職員が一体となって創り上げている様子が伺える。
4. 朝読書については、概ね良好な状態である。しかし週末課題については、生徒、保護者だけでなく、職員にも否定的な回答が多く見直しが必要である。来年度新聞のコラムの視写を計画しているという話であるが、やってみても面白いかもしれない。大切なことは継続して取り組むことである。
5. 教員アンケートの中で業務改善が遅々として進んでいない状況がうかがえる。中学校は部活動があるだけではなく、進路指導やそれにかかわる事務仕事も大量にあるため、勤務時間が長くなるのは仕方ないのもわかるが、管理職の方で早く帰れる環境づくりを行ってほしい。
6. 自由記述の中で出ていた黒ストッキングの着用や、靴・靴下の色の変更については、生徒会を中心に生徒の意見として盛り上げて、許可してやっても良いのではないかと。時代の流れや市内の他校の様子を見ても変更することに特に違和感はない。
7. 子どもの教育について、学校に多岐にわたって要求する保護者が増えている。子どもを育てるうえで学校の役割、家庭の役割、それに地域の役割などがあるはずで、特に子どもたちのしつけやマナー、それに道徳的な価値観に関する部分については学校任せにするのではなく、もっと各家庭で責任を持って行うべきである。